

農業環境技術研究所 研究成果発表会2012 いのちと暮らしを守る農業環境

(独) 農業環境技術研究所では、研究成果発表会を2年に一度東京で開催し、研究所が取り組む農業環境研究のおもな成果について、一般の方々に分かりやすく紹介しています。2012年は、「いのちと暮らしを守る農業環境」をテーマとして、11月30日(金)、新宿明治安田生命ホール(東京都新宿区)において開催しました。2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故による農地や農作物の放射性物質汚染など、国民の食の安全に対する関心が高まるなか、研究所では、農業生産を支える環境を保全し改善するための研究開発を進めています。今回の成果発表会では、身近ないのちと暮らしに直結する5つのトピックス、土壌-植物系での放射性セシウムの挙動とその変動要因、原発事故から1年半~農地の現状、カドミウムをほとんど吸収しない水稻の開発、セイタカアワダチソウを抑えて在来植生に戻す、歴史地図にみる関東の



里山と農村の今昔を紹介しました。

前回(2010年)に引き続き、サイエンスライターであり農林水産技術会議の委員も務める松永和紀氏をお招きして、研究者と聴衆の橋渡しをお願いしました。松永氏により会場から多くの質問や意見が引き出され、活発な質疑が交わされました。参加者へのアンケートでは、このような科学のコミュニケーションの場を今後も実施してほしい、長期にわたる研究を粘り強く続けてほしいなど、好意的な意見や今後の活動への期待が寄せられました。

(企画戦略室長 山本 勝利)

NIAES トピックス

農業環境技術公開セミナー in 静岡 生産性と環境保全を両立する茶園のエコ管理



1月22日(火)、静岡市のグランシップにおいて、「農業環境技術公開セミナー in 静岡 -生産性と環境保全を両立する茶園のエコ管理-」を静岡県農林技術研究所との共催、(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所の後援で開催しました。このセミナーは、研究成果を広く一般に紹介するとともに、その普及にあたる都道府県・市町村の方々との連携を深めることを目的としています。これまでに福島県、滋賀県、熊本県、千葉県で開催し、それぞれの地域と関係の深い成果を紹介してきました。今回のセミ

ナーには146名もの参加者があり、茶園に対する関心の高さがうかがわれました。

静岡県の茶園では、お茶の品質を高めるため、ススキなどの草を茶園の畝間に敷いています。その草を確保するため、「茶草場」と呼ばれる草場が維持されており、多様な生物が息巻く場となっています。セミナーでは、茶草場の重要性について、生物多様性および高品質なお茶を生産する観点から、世界農業遺産への登録を目指した取り組みなども交えて紹介されました。また、農地および茶園から発生する一酸化二窒素の削減対策、茶園周辺の地下水水質の向上に関する最新の知見が紹介され、生産性と環境保全の両立について討議されました。一酸化二窒素の発生抑制と茶草を使った茶園管理を結びつけた研究に期待が寄せられるなど、熱心な討議が行われました。

(連携推進室長 川崎 晃)